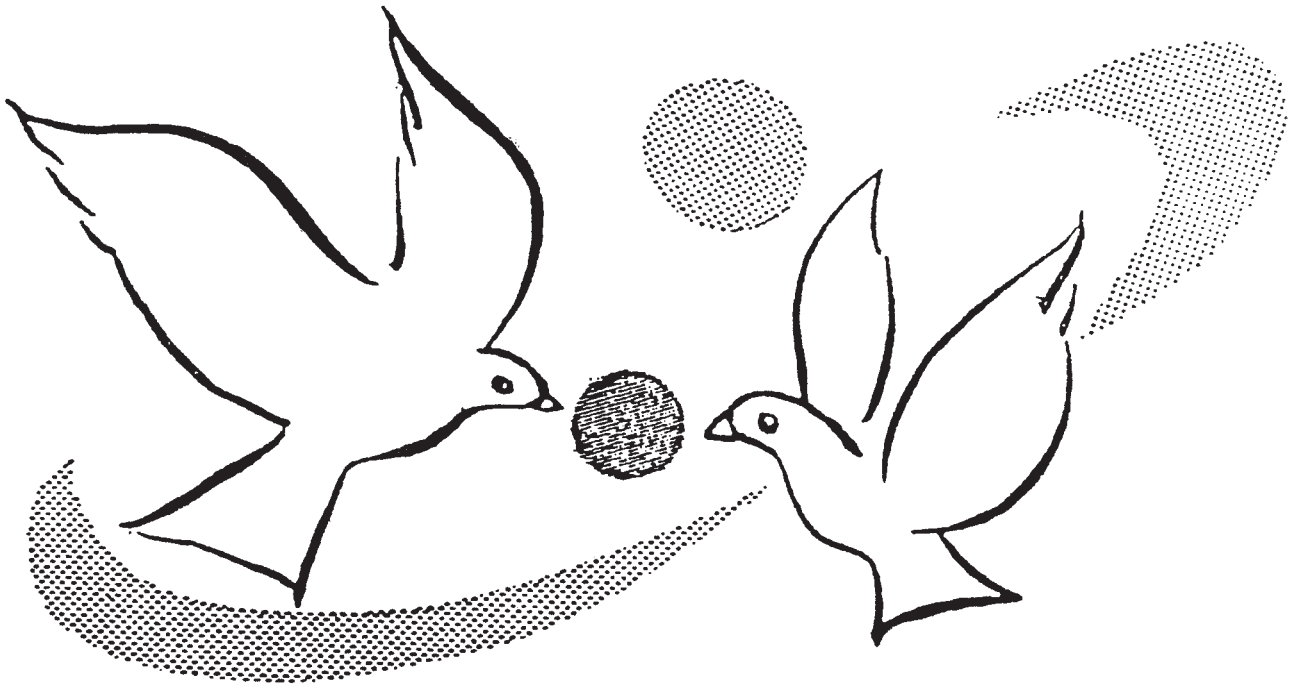
広島を訪ねて

平和のための
小中学生広島派遣団文集



―平成28年度―

（2016年度）

城　陽　市

市の木　梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。

南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。

市の花　花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月７日市制施行10周年を記念し制定。

豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。

市の鳥　しらさぎ

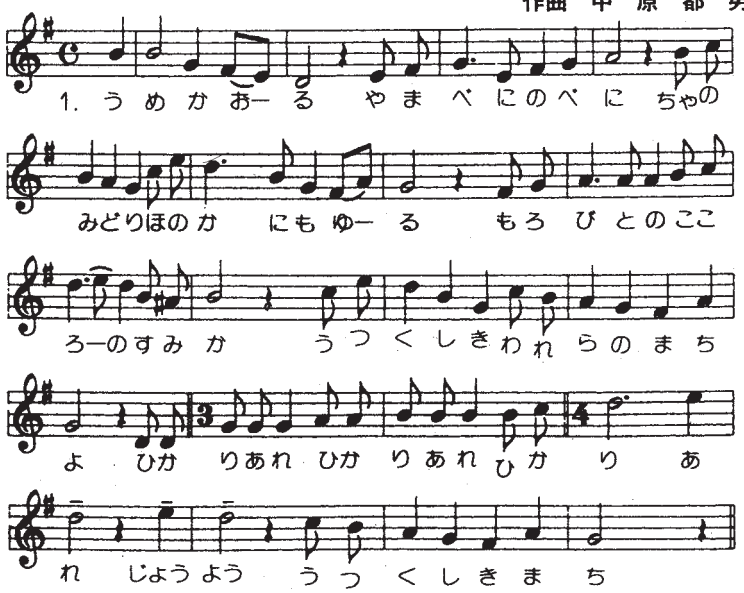
平成19年（2007年）11月７日市制施行35周年を記念し制定。

『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

城　陽　市　歌

明るくのびのびと

作詞　龍　村　孟　雄
作曲　中　原　都　男



2．松あおき　鴻の巣山に
鳥啼きて　明るき陽ざし
こだまする　槌のひびきに
ひらけゆく　われらのまちよ
栄あれ　栄あれ　栄あれ
城陽　ひらけゆくまち

3．砂しろき　木津の流れに
黄金なす　稲穂のみのり
山の幸　野の幸さわに
ゆたかなる　われらのまちよ
恵あれ　恵あれ　恵あれ
城陽　ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）２月15日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い、町歌を市歌とした）

城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行４周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）４月26日制定
（昭和47年（1972年）５月３日市制施行に伴い町章を市章とした。）

城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい
城陽の未来を創造するために
わたくしたち城陽市民は

一、自然を生かし　美しい緑を育てましょう
一、教養を深め　豊かな文化をつくりましょう
一、心身を鍛え　働く喜びを大切にしましょう
一、隣人を愛し　ふれあいの輪を広げましょう
一、秩序を守り　やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（１９８２年）11月７日制定
（市制施行10周年を記念し制定）

城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言

城陽市役所庁舎　南玄関前

平成２８年７月２１日（木）

城陽市役所集合

出発（小学生６年生３５名）

昼　食

平和記念資料館見学

資料館地下展示場・情報資料室見学

被爆者講話（近藤康子氏）

旅館　到着

入浴

夕食等

ミーティング

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

消　　灯

平成２８年７月２２日（金）

旅館出発

↓

広島平和記念公園到着

原爆死没者慰霊碑

↓

広島二中原爆慰霊碑

↓

原爆の子の像

（みんなで持ち寄った折鶴を捧げました）

↓

原爆ドーム

↓

爆心地

↓

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

↓

広島風お好み焼き体験（昼食）

↓

広島市出発

↓

城陽市役所帰着

↓

解　散

目　次

広島での学び　京都教育大附属桃山小学校　6年　友次勇登　1
命の大切さに思うこと　久津川小学校　6年　西田愛梨　1
広島派遣団に参加して　古川小学校　6年　梅本陽路　2
広島に行って　古川小学校　6年　巽勇利　3
広島を訪ねて　古川小学校　6年　中野心寛　4
広島派遣団に参加して　古川小学校　6年　森田健太　5
原爆のおそろしさ　古川小学校　6年　澤本彩花　5
広島に行ってみて　古川小学校　6年　原田里乃　6
2日間で学んだこと　古川小学校　6年　前田里紗　7
私が広島に行って感じたこと　古川小学校　6年　前利実侑　8
広島に行って学んだこと　古川小学校　6年　與那覇采美　9
心で感じた「あの日」の事　久世小学校　6年　寺本桜香　10
平和の大切さ　深谷小学校　6年　大槻宗祐　11
命の尊さ　深谷小学校　6年　高向智規　12
未来をうばった原爆　深谷小学校　6年　粟野真帆　13
改めて知った戦争のこわさ　寺田小学校　6年　蔵貫大志　14
広島派遣団に参加して　寺田小学校　6年　松井崚雅　15
広島に行ってきた　寺田小学校　6年　的塲蒼空　16
広島派遣団に参加して　寺田南小学校　6年　安田菜緒　17

広島に行って　寺田西小学校　6年　上田直幸　18
はじめて知った原爆と広島　寺田西小学校　6年　岡崎功太郎　19
広島派遣団の役目　寺田西小学校　6年　小原侑将　20
広島派遣団に参加して　寺田西小学校　6年　矢野涼介　21
今のくらしと昔のくらし　寺田西小学校　6年　麻中桜羽　21
広島派遣団としての体験　寺田西小学校　6年　梶木心愛　22
生きるって大切　寺田西小学校　6年　桐本梨乃　23
広島で学んだ事　富野小学校　6年　今村昂暉　24
広島で学んだこと　富野小学校　6年　小川桃花　25
原爆のおそろしさ　富野小学校　6年　松本歩華　26
広島に行って　青谷小学校　6年　大西祐太朗　26
とてもこわくて楽しかった広島　青谷小学校　6年　谷口力哉　27
広島に原爆が落ちた事を知って　青谷小学校　6年　上村天音　28
広島でまなんだこと　青谷小学校　6年　岡崎羽花　29
広島に行ってみて　青谷小学校　6年　西山天　30
広島派遣団に参加して　青谷小学校　6年　増田愛葉　31

広島での学び

京都教育大学附属
桃山小学校　6年
友　次　勇　登

これまでぼくは、国語の授業や、五年の遠足で行った「ピース大阪」で戦争の事を学んできました。また、今年になって北朝鮮が四回目の核実験を行ったと知り、実際に被爆都市広島を訪れて、核兵器の恐ろしさを自分の目で見たいと思い、広島派遣団に参加しました。

はじめに、広島平和記念資料館に行きました。様々な展示品・展示資料から、原爆投下時の広島と投下後の広島の人々の様子や建物の様子がよくわかりました。一番印象に残っているのは、原爆投下直後の人々の様子を表した、被爆再現人形です。なぜなら、人々がここまで激しくボロボロになった衣服を身にまとい、がれきが散乱する道を逃げまどう様子が、想像以上に怖く感じたからです。他にも、原爆投下直後の広島のパノラマも心に残りました。

次に、参加する前から聞きたかった被爆者の方の体験談を直接聞くことができました。お話をしてくださった近藤さんは、四才のころに、爆心地から約三・五キロメートルの所で被爆されました。幸い無事でした。近藤さんのお話で、一番心に残っているのは、近藤さんのお母さんが亡くなられて、火そうした時に遺骨を見ると、ほとんどの骨が残らず、粉々になっていたということです。原爆は、骨までも壊してしまうということに驚きました。また、近藤さんが成人してからも、被爆者という理由で仕事につけなかったということも知り、被爆者の方達が様々な苦労をされてきたのだと、感じました。

最後に、平和記念公園を散策しました。苦しみながら、この地で亡くなられた方々がたくさんおられると思うと心が痛みました。

現在は、緑豊かで平和な広島。日本が経験した、原爆という恐ろしい兵器を使った戦争を知り、二度と戦争を起こさないようにする努力をし続けることが大切です。

今も戦争やテロは世界で起こっています。話し合うことで平和に解決するべきだと強く思いました。

命の大切さに思うこと

久津川小学校　6年
西　田　愛　梨

私が広島に行ったわけは、広島のことを、もっと知りたかったからです。原爆が落ちたことも知らなくて、広島でそんなことが起きていたと分かったのは、テレビで見た時でした。その時に、広島に行ってみたいなぁと思いました。

まずはじめに、原爆の被害にあった方の話を聞いたことについて書きます。私ははじめ、どきどきしていました。被爆

者の方はその当時、４才でした。８時15分に原爆が落ちたそうです。その時に被爆者の方のお母さんは、必死で守ってくれたそうです。被爆者の方の妹さんはとなりの部屋で寝ていたそうで、その時に、口の中にガラスの破片が入っていたそうですが、血が出ていなかったと聞いて、こわそうでした。でも妹さんは、助かったそうです。破片が４枚くらい入っていたのに、命が助かったのがすごいと思いました。

次に原爆ドームに行って思ったことを書きます。原爆ドームは、原爆が落ちた時のまま残っていたので、その時にどんなことがあったのか分かるようになっていました。原爆ドームは、大きな建物ですぐに倒れそうな形だけど、形が残っていてすごいと思いました。でもその時、原爆ドームの中にいた人は、苦しんだのだろうなぁと思いました。

次に、資料館について書きます。資料館には、その時に着ていた服やズボンや物が置いてあったり、時計もあって、その時計は８時15分で止まっていました。その時に歩いていた人の模型や町の模型があり、原爆が落ちた場所も分かるようになっていました。原爆は、本当にこわいんだなぁと思いました。

最後に、広島風のおこのみ焼のことについて書きます。最初に生地をうすくのばして、味付けして、キャベツをたっぷり入れて、もやしを入れて、肉をのせて、そばをゆでて、焼いている所に置いて、生地をそばの上にのせて焼きます。最後にたまごを鉄板の上に割って、その上に生地をのせてしばらく焼き、味付けして出来上がりで、おいしかったです。

今書いたように、私は、命の大切さや平和の大切さを知ることができました。これから私は、平和で、戦争のない国を一人一人が作ってくれることを願いたいです。

広島派遣団に参加して

古川小学校　６年
梅　本　陽　路

ぼくは、広島派遣団に参加しました。

参加した理由は、２つあります。１つ目は、ニュースで原爆の事を見たことがあって、原爆に興味を持ち、もっと詳しく知りたいと思ったからです。２つ目は、日本で起こった事なので知っておくべきだと思ったからです。

城陽からバスで広島へ向かいました。

ぼくは、広島に来てびっくりしました。原爆が落ちた場所は、何十年たった今でも暗い雰囲気だと思っていたのですが、現在の町は活気にあふれていました。

初めに、原爆資料館に行きました。資料館には、原爆にまつわる物が展示されていました。その中で一番心に残ったのは、中身がまる焦げになったお弁当と、指ごと展示されていた黒いつめです。自分のつめだったらと思うと、とても恐くなりました。つめが黒くなったのは、放射能のせいなので放射能は恐いなと思いました。放射能を出す原爆も恐いなと思いました。

それから被爆体験者の講話を聞きました。その講話の中で、「戦争に行きたくないから自ら病気になった。」という話が印象的でした。当時の人は、戦争に行きたくなくても行かされていて、とてもつらく悲しかったんだろうなと思いました。

宿舎に一泊して、翌日折りづるをささげに行きました。ぼくたちが行った時には、多くのつるがささげられていました。その中には、ハートの形になっているつるもありました。つるの数だけ平和を願う人達がいるんだなと思いました。五月にアメリカの大統領のオバマさんが来た影響もあるのか、外国人も多かった気がしました。

そしておこのみ焼き体験をしました。自分で作ったおこのみ焼きは、とてもおいしかったです。

そしてバスで帰りました。

とても大事な平和の体験になったなと思いました。

広島に行って

古川小学校　6年

巽　勇利

ぼくは、バスで広島に行くときに、バスの中で、となりの人としゃべっているときは笑っていたけど、広島に着いたらびっくりしました。原爆が落ちたのに、大きなビルがたくさん建っていて、人が大勢いて、町は活気にあふれていました。昼ご飯を食べて、平和記念資料館に行きました。みんな、資料館に入る前は、笑いながら話していたのに、資料館に入って、音声ガイドを聞き、写真などを見たとき、みんな、黙ってしまいました。地下に行ったときは、はだしのゲンというマンガを読んでいました。

バスの中で、バスガイドさんが、はだしのゲンの話をしていました。ぼくは、はだしのゲンを、何回も読んでいるので、少し紹介します。はだしのゲンのゲンは、父、母、弟、妹、ゲンの五人で暮らしていましたが、原爆が落ちて、父、姉、弟を亡くしました。その後、母、妹を亡くしたゲンは、一人ぼっちになりましたが、新しく、四人の仲間と出会い、協力して生きていくという物語です。

平和記念資料館では、人の皮ふや、つめ、焦げた三輪車、血がついて、その血が洗ってもとれないままのワンピースなどがありました。これらの物や写真を見て、原爆の威力がわかりました。

２日目は、慰霊碑の前に花をささげお祈りをしました。原爆が落ちた後埋め立てたので、大勢の人の上を歩いていると思うと、ぞっとします。その後に原爆ドームへ行きました。触れると今にも崩れそうでした。爆心地は、今は、病院になっていました。病院の前に、そのときの写真が貼ってありました。その写真は、何が建っていたのかがわからないくらい粉々でした。焼け野原で、何も建っていませんでした。

ぼくは、二度と、戦争をしてほしくないと思いました。平和に暮らしている人々の幸せを奪ってはいけないと思います。もし、自分の家族が奪われてしまったら、恨み続けると

思います。でも、恨んでも何も変わらないので、最初から、戦争をしなければいいと思います。世界に戦争がなく、平和に暮らせればいいと思いました。

広島を訪ねて

古川小学校　6年
中野心寛

7月21・22日に原爆の学習をするため広島を訪ねました。

ぼくは初めは、

「広島に原爆が落とされたのは最近だからまだ町は荒れているだろうな。」

「人も少ないだろうな。」

という心配や不安な気持ちが体の中にたくさんありました。

しかし広島の町に入ると、荒れてはいなく建物がたくさん建てられていて、人もとてもにぎやかだったので、とても驚きました。

そして昼ご飯を食べ終わると、広島平和記念資料館に行きました。この資料館は、原爆の恐ろしさや当時の広島の様子などを伝えるために建てられた資料館です。

ぼくは資料館の中を見ていると、皮膚が熱さで垂れ下がり、親子が苦しんでいる様子に目を疑いました。

思いもよらない現実にぼくは目をそらしてしまいました。

でもこのことは実際にあったことだから、しっかりと学んで他の人に伝えないといけないと思って、もう一度その親子を見ました。

そしてバスに乗って広島平和記念資料館を後にし、ホテルに泊まりました。

2日目の朝。

ホテルで準備をしてからホテルを出ました。

そして昨日の公園に着くと、広島の原爆で死んでしまった人が納められている所に花をそなえました。

そして次に、自分たちの班が作ったつるを定められた所に捧げました。

次に原爆ドームを見に行きました。原爆ドームの上にはカラスが何羽もいました。

そして爆心地の所へ行くと、そこは病院の前でした。

そしてまた原爆ドームを見に行きました。さっきは遠くから見ていたけれど、近くから見た原爆ドームは中がよく見えて、説明が書いてある石板もありました。原爆ドームは原爆の衝撃でも倒れなかった建物だと知りました。でも、頑丈そうなのに、中に支えの柱をつけないと壊れるほどの原爆の威力だと知りました。

そして最後にバスで市役所に帰ってくるとみんなが迎えに来てくれていました。

今回学んだことや習ったことを、広島に行っていない家族や友達に伝えて、広島のことや原爆のこわさを知ってほしいです。

広島派遣団に参加して

古川小学校　6年
森田健太

この広島派遣団に参加して、ぼくは、こう思いました。「初めて、広島へ行ける気持ち」と「どのように原爆が落とされたのか、なぜ、広島が爆心地になったのか」です。ほかにもあったけれど強くその2つの気持ちが、ずっとありました。けれど、実際に行ってみると、平和記念資料館や、平和記念公園に行くと、その気持ちが一瞬で、変わりました。

それは、「広島で起きたことを、たくさん知りたい気持ち」と、「原爆時に、亡くなった人々は、とても可哀想だという気持ち」でした。資料館の物は、ボロボロの服、8時15分に止まった時計、溶けたガラス小瓶のかたまり、焼けあとのついた竹などが置かれていて、物全部が焦げていて、ぞっとしました。原爆が落ちた時の瓦をさわってみたら、ざらざらした所と、さらさらした所がありました。なぜそんな所があるかというと、高熱が当たった所と、高熱が当たっていない所があるからだそうです。資料館のことは、これで終わりです。

次は、広島のお好み焼き体験について書きます。ぼくは、広島のお好み焼きは、全く知らなかったから、ワクワクしました。いつも食べている、お好み焼きの方が絶対においしいと思っていたけれど、広島のお好み焼きを自分で作って、食べてみたら、いつも食べているお好み焼きではなく、全く別の食べ物ぐらいに違っていたので、とてもおいしかったです。また広島に行ったら、食べたいと思いました。

これらを通して、広島は、原爆が落ちる前は、じつに平和な町だったと思いますが、原爆が落ちると、天から地に変わるほど、一瞬で変わりました。被爆者講話を聞いたら、まさにその通りでした。

やっぱり広島は、行って良かったと思いました。それは、原爆のことを、一から全部わかったからです。平和の池と、慰霊碑や、原爆の子の像に、お祈りをして、二度と広島に原爆が落ちないように願いました。

広島派遣団での二日間で学んだことは、忘れないようにします。楽しかったことや、うれしかったこと、驚いたこと、学んだことを、活かしていけるようにしたいです。

これらを通して、ぼくは、全国を平和にし、兵器、（原爆）戦争をなくして、全てが争うことのない、とても平和な、国になってほしいと、そう思い願いました。

原爆のおそろしさ

古川小学校　6年
澤本彩花

私が、広島派遣団に参加した理由は、戦争のことや、広島に落とされた原爆のことについて知りたかったからです。

私は、広島に行くのは初めてでした。しかし、テレビやもらったパンフレットなどで原爆ドームなどは見ていたので、少しは知っていました。でも、実際に見て感じることと、テレビなどを見て感じることでは、感じ方はずいぶん違います。

私が、平和記念資料館に行って一番印象に残ったのは、親子とも服がボロボロで、ひふも垂れ下がっているロウ人形でした。それは、必死に生きようと「水をくれ、水をくれ。」と言っていたからです。絵ではなく、立体だったので、その時の様子が頭の中に浮かんできて、他の展示物よりも一番伝わりやすかったです。でも他に、他のものとは感じ方が違った「黒いつめ」や、中身が炭になっている「当時のままのお弁当」なども印象的でした。そして、焼けこげた三輪車は、今にも壊れていきそうな気がしました。それだけ当時のままということは、すごいなと思いました。

そして、語り部さんのお話は、想像しようとしてもできないくらいおそろしかったです。語り部さんの妹の口の中にガラスが入っていて、背中をたたいても出なくて、口の中に、手を入れてもガラスは出なかったと言っていて、けっきょく出て、口の中のけがもなくて、うれしかったんだろうと思いました。そして、ケロイドが出ている人は、夏でも、長そでのシャツを着てかくしていたと言っていたので、すごくかわいそうだなと思いました。もし、私がケロイドになっていて、長そでを着ていると、つらすぎて死んでしまっているかもしれないけれど、かくして生活していた人は、あきらめなくて、すごいと感じました。

私は、広島に行って、今まで知ることができなかったことをたくさん知ることができたし、原爆のおそろしさも、広島に行ったからこそわかることがありました。そして、この2日間で、広島でおきた、大変さや苦しさがよく分かりました。とてもいい経験になりました。知らない友達とも仲良くなれてよかったです。

そして、これからも、平和が続くことを願うと共に、原爆のおそろしさを伝え、広めていきたいです。

広島に行ってみて

古川小学校　6年
原　田　里　乃

私は、原爆のことは、ほとんど知らなくて、広島に落とされたんだ、くらいの認識しかしていませんでした。なので、詳しいことを沢山知ってみたいと思い、この広島派遣団に参加しました。

まず、平和記念資料館に行きました。そこは、黒焦げになったお弁当や、人の模型や、放射線に当たり溶けた瓦などが展示されており、原爆はとてもとてもおそろしいものなんだということを実感させられました。

次は、被爆者の講話を聞きました。聞いてみると、どれだけ大変だったのか、どれだけの人が、一瞬という短い間で苦しんだのかがよく分かりました。そして私は、「戦争」とい

うものは、もう絶対にあってはいけないと思いました。戦争は無くなり、二度と、人が苦しみ亡くなるようなことが起きないようにしてほしいと思います。

二日目には、平和記念公園に行って、慰霊碑に花をささげました。そして、その後、原爆の子の像に、皆で作った折鶴をささげました。そこには、とても沢山の数の折鶴がささげられており、皆が、平和を願っているのだと思いました。

そして、見た中でもとても印象に残った原爆ドームは、インターネットなどで見た画像の通りで、でも実際に見てみると、骨組みが丸見えで、写真などで見るよりもとても衝撃的で、それだけおそろしいものだったんだということが分かりました。

そして、私は、広島のお好み焼きはとても楽しみだったので、作ることもできて食べることができたのでよかったです。広島のお好み焼きは初めて作ったので、ひっくり返したりするのは少し難しかったけど、初の体験ができたのでよかったし、とても楽しくて、おいしく食べることができたのでよかったです。

私は、広島に行ってみて、原爆のことなど沢山知ることができて、よかったと思います。原爆に奪われるものはすごく大きいもので、とてつもなくおそろしいものだったということが、本当によく分かりました。戦争のない、誰しもが願う、平和な世界にしてほしいと、心から思いました。今のような、平和な日本であり続けていてほしいと思います。

そして、私達が広島に行って分かったことを、沢山の方々に伝えて、原爆のおそろしさを知っていってもらいたいと思います。

2日間で学んだこと

古川小学校　6年
前田里紗

私は、戦争を知りません。だから、原爆についても知らないし、あまり考えたこともありませんでした。しかし、原爆が落とされたという広島に行くことで、原爆について、原爆とはなにかというものを考える機会になりました。

1日目は平和記念資料館を見学したり、被爆体験者の講話を聞いたりしました。資料館では、音声ガイドを聞きながら、1つ1つ見学しました。その中には、原爆の熱い熱線により、ひふが垂れ下がり、ゾンビのようになった人の人形や、やけどの跡が残り、皮がむけて残酷な写真など、おもわず目をそむけたくなるようなものがたくさんありました。しかし、これが日本で実際におこったことなので、1つ1つそれらを受けとめました。

被爆者による講話では、詳しくその当時の様子などをお話してくださいました。その中で、私は2つのことが心に残りました。

1つ目は、爆心地から半径約３０００ｍは、約３０００度から、４０００度あったと言われていたことです。夏、私達は37度

ぐらいでも暑いといっているのに、３０００度なんてどれだけ原爆がおそろしいものなのか、改めて分かりました。

２つ目は、被爆者だから…と差別されていたという所です。被爆者は、就職やお見合いなどで苦労したそうです。被爆者は悪くないのに、１つの原爆のために、その人の人生も変わってしまったので、かわいそうだと、そしてすごくおそろしいと思いました。

２日目は、原爆死没者慰霊碑や原爆の子の像、原爆ドームなどを見ました。

慰霊碑では、１人１本ずつお花をささげました。私は、原爆により、被害があった人を思い、心をこめてお花をささげました。

原爆の子の像でも、同じように、心をこめて、千羽づるをささげました。その中に、全部ピンク色の折りづるだったり、折りづるで文字があったりと、すごいと思いました。

私は、この２日間、広島でいろいろなことを学習し、いろいろなことを学びました。原爆とは、この世で１番おそろしいものといっていいほどおそろしいです。この１つの原爆で多くの人々が亡くなっています。この世で、これからも、広島でおこったことがおきてはいけないし、おこしてもいけないのです。だから私は、広島であったことを心にとめて、日々の生活を送りたいと思いました。

私が広島に行って感じたこと

古川小学校　６年
前　利　実　侑

私は広島に行ってたくさんの事を学びました。核兵器のこわさ。命の尊さ。そして、今平和なくらしをしている私達がどれだけ幸せなのかということ。この３つは私が広島に行って特に感じたことです。

私が広島について一番初めに思った事は、「本当にここで原爆が落とされたのか。」という事です。緑が豊かで、街はたくさんの人でにぎわっていました。しかし、一つ目の見学場所、「平和記念資料館」での見学はとても信じられないものでした。今の広島県では考えのつかないものばかりです。服はボロボロになり、皮ふが垂れ下がっている人もいました。また、男性か女性か分からないほど顔がまっ黒になっている人もいました。私はとても見ていられませんでした。でも、これは日本で起きたことです。この広島での事に目をそらさず、しっかりと向き合おうと思いました。

しかし、核兵器の恐ろしさはここからでした。被爆された後も人々の苦しみは続きました。被爆直後から短時間に現れるのが「急性障害」というものです。原爆は体力的にも、精神的にも人々を苦しめました。それと同時にたくさんの人々の命を奪っていきました。これが核兵器の恐ろしさだと私は思います。

核兵器の恐ろしさを知ったのと同時に「命の尊さ」についても学ぶ事ができました。原爆は一瞬にしてたくさんの人を奪いました。これからたくさんの事を学ぶはずだった小さな子どもも大勢いたと思います。広島はアメリカ軍の実験台とされました。もし、私が広島にいて、私の大切な人達が周りからいなくなってしまったら、どうしようもなく苦しむと思います。そして、私の大切な人を目の前から消した相手を一生恨み、どうにかして復しゅうしてやろうと、そう思うと思います。でも、その憎しみの連鎖が戦争を起こす原因なのではないかと、広島に行って感じる事ができました。命は消そうと思えば簡単に消せるかもしれません。でも、だからこそ命はとても尊いものなのではないでしょうか。命は一度消えてしまうと、もう二度と命の炎がつく事はありません。だから、今この人生を精一杯生きていこうと私は思いました。

私達は、学校に行き、勉強をして友達と遊び、ごはんを食べています。しかし、これはあたり前のことではありません。とても幸せなことなのです。戦争が多かった時代は、学校に行かずに働かされていました。今の私達にとってはありえないことです。ごはんも今のようなものではなく、ごはんでも米より豆の方がずいぶん多かったのです。広島に行って私は、今、平和なくらしをしている私達はなんて幸せなんだと、そう思いました。だから、命を自ら消してしまうような事をしないで、今この時を楽しみながら生きていこうと思います。

広島に行って学んだこと

古川小学校　6年
與那覇　采　美

私は、七月二十一～二十二日まで、広島に行きました。そこで、原爆について学びました。原爆は、空中で爆発をします。通常の爆薬と比べると、はるかに大きな破壊力を持っています。それに、原爆は放射線を出します。その被害は、その放射線を受けた人の子どもや孫にまでも渡ってしまっています。私は、どうして原爆を広島に落としたのかが最初は不思議でした。調べてみると、広島には日本の基地があったからだそうです。京都には文化財などがあったため、落とされなかったそうです。

私は、どうして他の国が戦争し合っているのかがわかりません。人達をたくさん殺してしまうからです。争いの始まりは知りませんが、しっかりと話し合って解決するべきだと思います。資料館を見学して、語りべの人の話を聞いて、さらに戦争をしてはいけないという気持ちが強まりました。私達が大人になる時には、戦争のない平和な世の中になって、笑顔のあふれる国が増えてほしいです。そのためにも、ケンカやいじめをしている人に注意をし、仲よくできるように努力していきたいと思います。

私は、広島への派遣に参加してよかったなと思いました。原爆ドームなど、当時の建物を見ることができました。資料

を見たり話を聞いたりして、平和について詳しく知ることができました。今までは、難しそうであまり話題にふれようとはしていませんでした。しかし、学校で禎子さんの話を聞いているうちに、広島への派遣に行こうと思えました。たくさんの人の経験や苦しみを、少しでも知ることができてよかったです。これからも、少しずつでも平和について考えていこうと思います。

私は、かなり前から、どうして原爆があった時、建物に影が残るのか、それは本当なのか、とてもずっと気になっていました。なので、それを知る機会をくださって、ありがとうございました。

資料館に行って、「正直に言って、気持ち悪い」と言う人がいました。でも私は、こわい話や、その本の絵や、戦国ドラマや殺人ドラマなどをよく見るので、気持ち悪いとは思いませんでした。日本は今、戦争をしていないので、一瞬にして人が死ぬなんて、実感が無いので、原爆が落ちてそのようなことになったなんて、信じられないぐらいです。でも日本が戦争をやめてくれてよかったです。

心で感じた「あの日」の事

久世小学校　6年
寺本　桜香

私が広島に着いた時、「キレイな所だなぁ」と思った。今、自分がふみしめているこの地で、たくさんの人々が水を求めて亡くなったなんて、信じられなかった。信じたくなかった。

私が広島に来た理由。それは、折原みとさんが書いた、「あの夏に…」という本を読んだからだ。この本に出会う以前は、原爆は恐ろしいという事しか知らなかった。でも、今は違う。原爆で亡くなった一人ひとりには、オシャレがしたいという気持ちや、おいしい物が食べたい気持ち、未来に夢みる気持ちなどがあって、そんな希望を奪ってしまうのが原爆だと分かった。

資料館を見ている内に、だんだん泣きたくなってきた。家の下じきになった大切な人を助けられず、置き去りにして逃げる人の気持ち。お弁当を食べるのを楽しみにしていた人の気持ち。子供が死んでしまった親の気持ち。いろんな「気持ち」を考えると、いたたまれない気持ちになった。だからこそ、死没者をしっかり追悼しようと心に強く思った。

私達は、被爆者の方々の気持ちになることは出来ない。でも、「想像」する事はできる。想像するのは、つらくて、こわい。でも、実際に体験された方は、もっともっとつらくて、もっ

ともっとこわかっただろう。きっと、思い出したくもないと思う。それでも、「平和」のために、「私達」のために、その時の事を語ってくださる語り部の方には、ありがとうの気持ちでいっぱいだ。

人それぞれ、「戦争」に対する考え方は違うだろう。自分とは何の関係もない、昔の事だと考えるか、平和にしたいという気持ちがなければ、いつ戦争になるかわからない「身近なもの」と考えるか。私は2つ目の考え方だ。今回の広島派遣団で、その事を学んだ。実際に被爆した物を見ることによって、その「声」を聞くことができる。2才の子供が乗っていた三輪車や、食べられなかったお弁当。中には、目をそらしたくなるような物もあった。でもしっかりと目に焼きつけた。

科学が発達した今、戦争になれば、昔よりもっとひどい事になるだろう。だから、それに見合った「平和への想い」の発達も必要だと思った。

平和の大切さ

深谷小学校　6年
大　槻　宗　祐

ぼくは、広島派遣団に参加すると決めたものの、本当に行こうか迷っていました。なぜなら、平和のつどいに、目をそむけたくなるような写真があったので、広島にもそのようなものがたくさんあるのではないかと、こわくなったからです。しかし、そんな事ではいけないと思ったので、城陽市の代表として広島へ行き、様々な事を学ぼうと決意しました。

広島へ行くまでの間、ぼくは平和資料館、原爆資料館について調べました。新聞の記事には、「オバマ大統領が広島に訪問した効果で約4割入館者が増えた。関心が高まった表れだ。」と書かれていました。オバマさんの広島平和記念公園の滞在はわずか50分なのに、このようになったので、オバマさんが訪問した事は、歴史に刻まれるすごい事なのだと分かりました。

バスで広島へ移動中、ガイドさんが『禎子さんの折りづる』の話をしてくれました。

「2才の時に被爆した禎子さん、12才の時に白血病と診断され、赤十字病院に入院しました。折りづるを千羽折るとどんな病でも治ると聞いた禎子さんは、毎日薬包紙でつるを折りました。しかし、千羽を超えても病気は治りません。それどころか、悪くなるばかりです。それを知った禎子さんのお母さんは、禎子さんにばれないよう、ひっそりと毎日千羽にならないように捨てていきました。捨てなければ『二千羽』を超えていたと言います。禎子さんはわずか8ヶ月の闘病生活で短い生涯を終えました。」

短い人生で亡くなった禎子さんの気持ちは、くやしく、悲しかったのではないでしょうか。それに、つらいのはお母さんも一緒だと思います。娘のためにつるを捨てていくのは勇気のいる事です。ぼくは心から「つらかったろうな。」と思

いました。
　バスに揺られて5時間、やっと広島に着きました。広島は原爆の落とされた町です。しかしどうでしょう。緑も多く、町は栄えて、とても、焼け野原だったなんて信じられませんでした。城陽より都会で驚きです。しかし、都会でも、東京、大阪、京都とはちがう『何か』があり、なんだか不思議な感覚でした。
　原爆資料館に着きました。新聞の記事に書いてあった通り、資料館にはたくさんの人々がいました。日本人だけでなく、外国の方もたくさん見学していました。オバマさんの広島訪問は日本だけでなく、外国の人々も興味を示していたのだと分かりました。
　資料館には平和のつどいで展示してあった衝撃的な写真があると思っていました。しかし、そのような写真はなかったので安心しました。
　それでも、原爆が落とされた瞬間や、急性障害、後障害のひどさ、むごさが伝わってきました。班の仲間はケロイドになった人の写真を見て「こわい。」「ひどい事だね。」と言っていましたが、ぼくも全く同じ気持ちになりました。
　原爆のおそろしさ、ひどさ、つらさ、むごさを知らしめられた原爆資料館でした。
　広島は当時、絶望と化した町でした。しかし、奇跡や町の人の協力で、今は、とても平和で希望に満ちあふれた町です。このように、平和はどんな事よりも楽しく、うれしく、すばらしい事かと広島は教えてくれました。
　ぼくは、その事を身近なところから世界まで、はば広く伝えられたらなと思います。

命の尊さ

深谷小学校　6年
高向智規

「オバマ大統領が折った鶴を自分の目で見てみたい。」ぼくが広島派遣団に参加しようと思ったきっかけの一つだ。
　今年五月、原爆を落とした国の大統領が初めて被爆地広島に来日した。ぼくは、新聞やテレビでたくさんのニュースを読んだり見たりした。オバマ大統領が小中学生に自分で折った鶴を渡したり、平和記念資料館で名前を書いた時に二羽の鶴を置いたりしたことを知った。オバマ大統領の鶴が平和記念資料館で見られると知って、どんな鶴なのか見たいと思った。
　一日目、まず、平和記念資料館に行った。普通は割れることのない、石でできた銭湯の煙突が、真っ二つに割れて置かれていた。また、午前八時十五分を指したまま止まった時計も置かれていた。ぼくは衝撃を受けた。そして、どんなに原子爆弾の威力は強かったのだろうかと思った。積乱雲より大きなきのこ雲が現れた様子も分かった。爆弾によって空は暗くなり、人々の皮膚は垂れ下がっていた。「おかあちゃん熱いよ、熱いよ。」や「水、水をください。」と言って死んでしまっ

た人がたくさんいたと聞いた。これが七十一年前の八月の実際の広島の様子なのだ。ぼくは、人として決して忘れてはいけないと思い、しっかり見たり聞いたりした。出口の近くでぼくが見たかったオバマ大統領のメッセージと鶴を見た。小中学生に手渡した折り鶴と、メッセージと一緒に添えた鶴、メッセージがあった。すごくていねいに折ってあった。ぼくには、四羽の鶴が核兵器のない世界を追求し、平和な世界が続くことを願っているように見えた。

もう一つのきっかけは、広島のお好み焼きを食べてみたいと思ったからだ。ぼくは大阪風のお好み焼きが大好きだ。母が昨年秋に広島に行き、「お好み焼きを食べておいしかった。」と言っていたので、食べてみたいと思っていた。二日目の昼食の時に食べた。焼きそばの上にキャベツをのせたものだったのでびっくりした。

ぼくは、今回広島派遣団に参加して、「戦争は絶対にしてはいけない。」「戦争で人が死ぬと、たくさんの人が悲しい思いをする。」「戦争ではなにも解決しない。」と改めて強く思った。今ぼくができることは、ぼくが感じた戦争のおそろしさやこわさ、むごたらしさ、悲しさを友達に伝えていくことだと思った。

二〇二〇年には東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。そのとき、世界から大勢の人が日本に来るので、広島や長崎にも来てほしいと思う。そして、見たことや感じたことをそれぞれの国で話してほしい。そうすれば、世界の人が核兵器、戦争のおそろしさを知り、平和の尊さが分かると思う。ぼくの命も、他の人の命も大切にしたい。それが、世界の平和につながると思うから。

未来をうばった原爆

深谷小学校　6年
粟野　真帆

私は、広島の原爆について実際の写真や物を見て知りたいと思ったので、派遣団に参加しました。

一日目は資料館を、二日目は慰霊碑、原爆ドーム、爆心地を見てまわりましたが、どれも亡くなった方々の苦しみや悲しみが伝わってきて、原爆のおそろしさを訴えていました。

資料館に展示されていたものは、全てボロボロで、人は肉や骨が丸出しになっていました。そこから今にも「たすけて、熱いよ」という声が聞こえてきそうでした。そして、被爆された方の話を聞いたとき、放射能を受けるとみんな血の混じったげりをして苦しむのだと知りました。傷がなくても原爆を受けたという理由で、就職を断られたり結婚を断られたりして、精神的な苦しみも受けるそうです。罪のない人々が、一発の爆弾によって自分の未来を奪われていく。原爆を受けた人は、体にも心にも一生の傷を負い、苦しみながら生きていく。戦争は苦しいだけだから、してはいけないということを、一生懸命語ってくださいました。また、被爆した方々の傷を受けとめ、話を聞いてみんなに伝えていくのは私達だ

から、しっかり聞いておかなくてはと思い、言葉の一つ一つを忘れないようにしっかり聞きました。

旅館に向かうバスの中で、立ち並ぶビルや路面電車を眺めていたときにもずっと、原爆の写真やひどいやけどを負った人達のことを考えていました。自然がたくさんありとてもきれいなこの町の下にも、全身やけどをし、苦しみ泣きながら死んでいった子どもや、差別を受けて一人さびしく死んでいった人達がたくさん埋まっているのだろうと考えると、とてもおそろしくなりました。でも、あんなにひどいことがあっても、くじけずにここまで町を活気づけた広島の人々は、すごいなと思いました。

一日目の夜のミーティングでは、つるを束ねて世界の平和を誓いました。

そして、二日目。様々な慰霊碑に手をあわせ、花やつるをささげました。慰霊碑のまわりに水が張ってあるところもあり、そこに亡くなった方の名前が数えきれないほど書いてありました。たくさんの人が亡くなったことは分かっていたけれど、でも、信じられないくらいの名前が、そこには記されていました。

いよいよ原爆ドームに着くと、ドームが今にも壊れそうで、原爆の威力がとても強いことが分かりました。まわりにはがれきが散らばっていて、全体は茶色く焼けていました。取り壊してほしいという意見もあったみたいだけれど、私達がこうして見て理解できるものが残っていてよかったと思います。

広島に行って、原爆や戦争のおそろしさを体感できました。今回学んだことをたくさんの人に伝えて、争いのない平和な世界になってほしいです。

改めて知った戦争のこわさ

寺田小学校　6年
蔵　貫　大　志

ぼくが平和のための小中学生広島派遣団に参加しようと思ったきっかけは、六年になって初めて読んだ、はだしのゲンという本で、広島の原爆が気になったからです。

一日目で一番思い出に残っているのは、近藤さんの講話です。近藤さんの講話は、戦争の時やその後の生活についてがわかりやすかったし、戦争のこわさを伝えていくことが大切だと思いました。資料館の中ではいろいろなものが展示されていたし、音声ガイドでわかりやすいし、色んなことを知る事が出来たから、とてもいいことだと思いました。そして一日目をすべて通してみると、原爆のおそろしさを知りました。

二日目は広島の平和記念公園に行きました。一番はじめには原爆で亡くなった人の慰霊に行きました。そこで気になった点が三つありました。

一つ目は、慰霊碑の周りに水が張ってあったことです。ガイドさんに聞くと、原爆の後に原爆の被害を受けた人は、水を求めて死んだ人が多くいたからだそうです。

二つ目は、慰霊碑に屋根があったことです。その理由は、雨が降って汚れたりしないための様です。

三つ目は、慰霊碑に書いてあった意味がわからなかったことです。何て書いてあったかというと「やすらかにおねむりください、あやまちは二度とおこしませんから。」と書いてありました。

疑問に思った外国人が、その言葉を書いた人に聞きました。すると書いた人はこう言いました。「あやまちをおこしませんからという意味は、日本人だけじゃなく、全人類があやまちをおこさないという意味だ。」と言ったそうです。

ぼくはその後、爆心地に行ったり、原爆ドームに行きました。そして元安川を渡る時に、ある事に気付きました。橋に「元」という字が入っていたのです。

ぼくは二日間を通して、色んな事を学びました。講話を聞いたり、資料を見て知った事を次の世代の人に伝え、原爆のおそろしさや、命の大切さを知ってもらい、また次の世代、その次の世代へと伝えていきたいです。

広島派遣団に参加して

寺田小学校　6年
松井　崚雅

ぼくは広島派遣団として、二日間広島に行きました。広島に着いたとき、とてもびっくりしたことがありました。それは、広島市は活気あふれる大都会だったということです。七十一年前に原爆が本当に落とされたのか、と疑うぐらいです。

一日目、広島平和記念資料館に行きました。たくさんの写真、模型、遺品がありました。中には広島の原爆投下時刻で止まった時計などがありました。その中で、ぼくが一番印象に残ったのは、「黒い爪」です。それは、同じ人間なのに血管が入っている爪だったからです。とても怖かったです。

広島に投下された原子爆弾は、長さ約三メートル、重さ約四トン、リトル・ボーイと呼ばれていました。これは原爆投下用に改造された爆撃機「エノラ・ゲイ」号により投下されました。広島に原爆が落とされたのは、いくつかある原爆投下候補地から選ばれたからだそうです。

資料館の地下では、戦争に使われた武器などがありました。図書室もありました。この図書室には、「はだしのゲン」や「サダコと折り鶴」など戦争や平和について考える本がありました。また、イヤホンをしながら、被爆者の話を聞ける映像がありました。

被爆者講話は、説明会と同じような内容でした。四方は火の海で、川に飛び込む人もいたそうです。被爆した数日後は、あちこちにたくさんの倒れている人がいたそうです。それも、生きているのか死んでいるのか、男なのか女なのかわからないそうでした。もし、ぼくがこのようなところにいたら、生きていけないだろうと思いました。

二日目、原爆死没者慰霊碑に行きました。周りには、水が張りめぐらされていました。理由は、被爆者は水を求めながら亡くなっていったからだそうです。

また、今年の五月にオバマ大統領がそこで演説されました。ぼくは、オバマ大統領の、核は二度と使ってはならないという考えに、共感できました。

原爆の子の像の前では、みんなで持ち寄った、折り鶴をささげました。子供の力で、よくこんな立派なものが作れたなと思いました。

爆心地にも行きました。爆心地の病院でも疑いを持ちました。ここが本当に爆心地なのか。本当に七十一年前に原爆が真上で爆発したのか。理由は、ふつうに診療している病院だったからです。しかし、他の病院と異なる所はというと、看板があったことです。その看板の中に写真がありました。その写真は、見渡す限りガレキで、病院など跡形も無く、黒い空でした。

原爆ドームは、ガレキもそのまま残っていて、被爆した当時のままのようでした。原爆が落とされる前は、「広島県物産陳列館」という建物だそうです。この建物はドームの色が緑色で、被爆する前は一際目立つ建物だったそうです。昭和二十年八月六日、午前八時十五分までは。この建物は、爆心地からほど近いのに全部は壊れなかったので今の形を保っています。ぼくは、原爆ドームが永久に戦争や原爆の恐ろしさを語り続けていくために、保存されることはよいことだと思います。

ぼくは今回の広島派遣団に参加して、原爆のことをたくさん学べて、とても良かったと思います。

広島に行ってきた

寺田小学校　6年
的場　蒼空

7月21日木曜日から7月22日金曜日まで広島派遣団で広島に行きました。

広島に行って最初にしたことは昼ごはんを食べました。昼ごはんのメニューはざるうどんです。今まで食べた中で一番おいしかったです。

次に平和記念資料館に行きました。まず音声ガイドで約71年前に起きたことを聞きました。

資料館が終わったら被爆者のお話を聞きました。爆弾が投下された所から近い所で爆発したのに、傷一つなくてすごかったです。でも、そこから影響が出てきて、吐き気やげりが被爆者をおそいました。その症状が治るまでの苦労がどれ

ほどだったのかを考えたら、おそろしかったです。
次にホテルに行ってお風呂に入りました。今まで入った温泉の中で、2番目に気持ちがよかったです。
次は夜ごはんを食べました。夜ごはんのメインはしゃぶしゃぶでした。そのしゃぶしゃぶもおいしかったです。
次は部屋で1時間休憩して、1日の感想を話し合う会がありました。それともう一つ、千羽づるを班で全部つなげて、平和のメッセージを何にするかの話し合いをしました。
次の日朝ごはんを食べて、原爆ドームに行って、色んな角度から写真を撮ったり見たりしました。
次に行った場所は原爆の子の像です。原爆の子の像に千羽づるをささげて写真撮影をしました。
次に爆弾が地上600mから投下され、被爆した爆心地に行って、気づきました。それは71年前に投下された爆心地なのに、直され整備もされていて、爆弾が投下された爆心地とは思えない様なほど、きれいになっていました。
今回の派遣団で、人はどん底に落とされても、努力したら元の広島を取り戻せるということがわかりました。

広島派遣団に参加して

寺田南小学校　6年
安田　菜緒

広島派遣団に参加するのに初めは迷いました。でも学校の授業で戦争について勉強するので実際に見てみたいと思い参加しました。
戦争で赤ちゃんから大人までたくさんの人が死にました。私と同じくらいの子供も両親や兄弟と離ればなれになったり、水が飲みたくても飲めない、おなかがすいても食べる物がない。今の私の生活からは考えられない、今がどれだけ幸せかを知りました。
平和記念資料館で佐々木禎子さんの折り鶴を見ました。被爆時は二歳でしたが、私と同じ六年生で白血病になり十二歳で死んでしまった禎子さんが、病気が治りますようにと思いを込めて折り鶴を作られたことを知り、どんな気持ちで亡くなられたのだろうかと考えました。
二日目の原爆ドームでは原爆のおそろしさを知りました。広島に投下された原爆「リトルボーイ」の温度は百万度を超え、爆心地の地表面は三千～四千度にもなったそうです。私には想像のつかない温度です。やけどは皮ふを焼きつくし骨が見え、内臓まで障害を受けたり、着ていた着物の柄が皮ふに焼きついたり、知れば知るほど悲惨な状況でした。原爆の特徴は、人体に危険な放射線を大量に出すことです。原爆に

よる放射線は熱や吐き気、げりをおこすだけではなく、佐々木禎子さんのように数年も経ってから白血病になったり、十年も経ってからいろいろなガンになる人が多いそうです。

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館で見た、原爆が落とされた市内の光景も印象に残っています。原爆による火事は燃えるものはすべて燃やし、とても殺風景に感じました。焼け焦げた電車や三輪車、ボロボロになった原爆ドームは、戦争・原爆のおそろしさです。

私の身近な人に、被爆した人はいません。また、戦争を知っている人も少ないです。でも、昔の話、私には関係ないことと思ってはいけないし、戦争がどれだけ悲惨で残こくなものかを忘れず、二度と戦争が行われず、今の平和な世界がいつまでも続くように願いたいです。

広島派遣団に参加して、学校では学べないことをたくさん学べたと思います。派遣団に参加できて良かったです。

広島に行って

寺田西小学校　6年
上　田　直　幸

ぼくは、友達に誘われて、広島派遣団に参加しようと思いました。

バスが広島に入った時、少し思っていた景色と違いました。昔、原爆が落ちた所とは思えないほど、とてもたくさんの建てものがたっていて、京都と変わらなかったからです。

昼ごはんは、ぼくの大好きなうどんだったので、とてもうれしかったです。バスの中での楽しい気持ちのまま、広島平和記念資料館に着きましたが、楽しい気持ちは消され、原爆の悲惨さと向き合う事になりました。

皮の垂れた姿をした人形や、黒く焼け焦げた弁当箱は、その時、何もかもが燃えたひどさを物語っていました。原爆は、2，270ｍもの範囲を、一瞬で吹き飛ばす威力がありました。ぼくたちが走ると5分～10分かかる距離にいた人達も、全てが一瞬にしてなくなってしまう。原爆のおそろしさを改めて知りました。

被爆体験者の方のお話を聞きました。戦争が始まってから、満足に食べられないなど、自由な生活ができなかったのは、日本のどこにでもあった事だろうけど、被爆をした人達は、生き残れたとしても、爆弾が落ちた時の痛さや、病気や差別とずっと戦わないといけない事を知りました。

二日目は、平和記念公園に行って、慰霊碑に花をささげました。原爆の子の像には、折りづるをささげました。その時、古川小学校の人は、追加で百羽持って来ていました。周りには、折りづるで作った地球など、いろいろ飾られていました。その後、原爆ドームに行きました。原爆が落ちた時からそのままで、テレビやニュースなどで見たことがあったけれど、実際に見るのは、初めてでした。骨組みが見えたり、中が見えたり、今にも倒れそうでしたが、建物から、とても原爆のこわさが伝わってきました。

ぼくは、広島に行って、原爆を落とすのに京都が狙われていたことや、被害にあった方による体験のお話からなど、初めて知ることばかりで、自分の原爆に対する知識がとても増えました。

そして、もう一度起こったらと考えると、とてもこわく感じました。二度と戦争を起こしてはいけないし、今ぼくたちは、この平和を守っていかないといけないと思いました。

はじめて知った原爆と広島

寺田西小学校　6年
岡　崎　功太郎

ぼくが広島派遣団に参加したきっかけは、親にすすめられ、行ったことがない広島へ行ってみたかったからです。

第2次世界大戦や原爆のことは広島に行くまであまり知りませんでした。長い時間バスにゆられ昼食をとり、平和記念資料館へ行きました。かみの毛が焦げてひふがとけて、血を出しながらお母さんについて行く子供の人形を見ました。音声ガイドで聞いた「水をください、助けて」の声がこわかったです。その後、被爆体験者であるおばあさんの話を聞きました。

原爆で地面が３０００度になり、多くの人が焼け死んだ。おばあさんが４才の時に原爆が落とされ、お母さんが守ってくれて助かったが、お母さんがその時のケガの跡を見られるのが嫌で、夏でも長そでを着ていたという話を聞きました。

地面が３０００度とは、想像もつかない熱さです。

そこで初めて、原子爆弾が京都や東京に落とされるはずが、神社が多いとの理由で、京都ではなく広島に落とされたことを知りました。もし京都に落ちていたら、今、派遣団に参加しているぼくは、いなかったかもしれません。今日の派遣団でお礼の言葉を述べる代表に立候補していたぼくは、おばあさんに心からありがとうのお礼をしました。

旅館に行って、夜に千羽づるをつなげて「戦争をくり返さない」と書きました。

次の日、慰霊碑に花をそなえて手を合わせました。

初めて見た原爆ドームは壁がなく、柱だけが残っている状態で、カラスがたくさん住み着いていました。となりには大きな川が流れていて、はだしのゲンで読んだあの川だと知りました。

広島焼体験では、ひっくり返すのに失敗してむずかしかったけれど、おいしく出来ました。

派遣団に参加して、転校前の友達にも会えました。友達と原爆ドームを見たり、おやつを食べたりして、戦争の時代に生まれなくて良かった、今の自分は幸せだと思いました。

千羽づるに書いた「戦争をくり返さない」を続けていかないといけないと思いました。

広島派遣団の役目

寺田西小学校　6年
小原侑将

ぼくは、城陽市代表として、広島派遣団に参加しました。理由は、広島に落とされた原爆について知りたいと思ったからです。

一日目、平和記念資料館に行きました。展示されていたのは、焼け焦げて八時十五分で止まった時計、熱で折れ曲がった三輪車、黒く焼けた鉄かぶと、中身が炭になっているお弁当箱等でした。模型の皮膚は、はがれ落ちて肉が丸見えになっていました。こんな丈夫な物ですら破壊してしまう原子爆弾は、人間の命を簡単に奪っていくのだと分かりました。今まで、原爆について考えたりテレビで話を聞くよりもずっと怖かったけど、しっかりと見て原爆の恐ろしさを学ぶしかないと思いました。

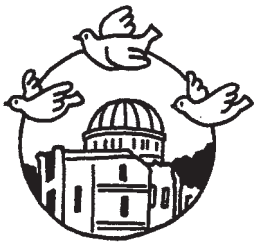
次に、被爆体験者のお話を聞きました。約九十年前、戦争が起こるまでは、日本は優秀な国といわれていたそうです。ですが、B29の空襲で日本各地の都市は破壊され、広島と長崎では原爆を落とされて焼け野原になったと言われました。ぼくは、皮膚がめくれあがるという話を聞いて、どれほど痛かったかと思うと寒気がしました。

二日目は原爆ドームを見ました。爆心地からすぐ近くなのに、全部つぶれずに残ったことはすごいと思いました。残った建物がぼく達に、原爆の威力の恐ろしさを伝えてくれるからです。ドームの前に流れている太田川には、原爆ですさまじいやけどをした人が、焼けただれた体で太田川につぎつぎ飛びこんだという話です。想像すると、ぞっとしました。

原爆の子の像に行ったとき、たくさんの折り鶴を見て、その折り鶴分の平和の祈りや願いが込められているのがすごく伝わってきました。ぼくも、絶対に平和を保とうと思い折り鶴をささげました。

見学が全て終わったら、昼ご飯の「広島焼き」でした。広島焼きは自分で作りました。少し難しかったのがひっくり返すところでしたが、なんとか出来ました。とてもおいしかったです。

ぼくは広島に行って、とてもこわかったけど、原爆を深く知ることができました。そして、戦争のない時代に生まれてこれて幸せだと思いました。毎日通える学校や、一緒に遊べる友達がいて、好きなサッカーを仲間とプレイできるのです。これからは、この戦争の恐ろしさを皆に伝えることが大切です。それが広島派遣団の役目だからです。そしてぼくの話を聞いてくれた人は、今、命があることがどれほど幸せか分かると思います。



広島派遣団に参加して

寺田西小学校　6年
矢野　涼介

ぼくが広島派遣団に参加したのは、戦争のことを学ぶ良いきっかけになるとお母さんにすすめられたことと、最近オバマ大統領が広島に行ったニュースも見たので、広島に少し興味があったからでした。

広島に向かうバスの中で、ぼくは原爆が落ちたのだから、広島はめちゃくちゃになっているのではないかと考えていました。

広島に着くと、城陽よりも大きいビルやお店がたくさん建っていて驚きました。本当にこんなにぎやかな場所に原爆が落ちたのかと信じられませんでした。

平和記念資料館に行き、焼けてボロボロになった服、皮膚がただれた親子の人形、黒い雨に遭った黒い爪、8時15分で止まった時計など、目を伏せたくなるようなものがいっぱい展示されていて、ぼくは原爆のおそろしさを感じました。

被爆体験者の方の話は、水を探しに行ったたくさんの人が川で亡くなっていた話や、写真など思い出のものは何も残らなかった話など、悲しい話ばかりでした。

2日目には、慰霊碑に花を供え、原爆の子の像に折り鶴とメッセージを捧げました。原爆の子の像は、原爆の犠牲になった、ぼくたちと同じ年くらいの子供たちがまつられていることでした。亡くなった子供たちは、ぼくと同じように楽しい毎日があったはずなのに、本当にくやしい思いをしただろうと思いました。

原爆ドームはすごい迫力がありましたが、今にも崩れそうで、原爆の威力がよくわかりました。爆心地は今、病院になっていて、原爆が落とされた形は残っていませんでした。

原爆が落とされたことで、たくさんの人が家族を亡くし、辛い思いをして、幸せを奪われました。こんなことが二度と起こってはいけないと思いました。

ぼくは広島派遣団に参加し、原爆のおそろしさと平和の大切さを学びました。ぼくが今、大好きなサッカーをしたり、友達と遊んだり、家族と過ごしたりできることが幸せなことなんだと思いました。いろいろなことを考えるいい経験をさせてもらったと思います。ありがとうございました。

今のくらしと昔のくらし

寺田西小学校　6年
麻中　桜羽

私が、広島に着いた時、「本当に、こんな所に原爆が落ちたのかな」と思うぐらい、緑がきれいな、とてもいい所でした。けれど、広島平和記念資料館に入って、見ていく内にだんだん足が動かなくなって、その場にしゃがみこんでしまい

ました。怖くて、つらくて、胸がしめつけられるような気持ちでした。広島に原爆が落ちたのは知っていましたが、こんなにおそろしい出来事だったということを学べました。8時15分に止まった時計や、原爆が落ちて病気になった人の写真が置かれていました。この戦争で、いろんな人が苦しんでいることがよくわかりました。

地下の資料室では、原爆が落ちて、火が燃え上がり、ボロボロになった服や、糸が全部ほどけた琴がありました。私は、必死にメモし、写真を撮りました。家に帰り、メモと写真を使い、お母さんや、おばあちゃんなど、いろんな人に戦争の怖い出来事を話しました。こうして、戦争の怖さや、悲惨さを人に伝え、私のように、戦争のことをあまり知らない人達にも知ってもらうことが大切だと思いました。

2日目は、原爆ドームを見学しました。中はボロボロで、レンガや石がゴロゴロ落ちていて、雑草だらけでした。私は、「原爆が落ちると、地面全部がこんな様子なんだろうな」と思いながら見学していました。平和記念公園の慰霊碑に花を捧げました。「ここに原爆で死んでしまった人がいるんだな。やっぱり命は大切にしないとな」と思いました。折りづるを捧げた時は、一人で千羽を折りたい気持ちになりました。「やっぱり戦争はいけないことだな」と改めて感じました。

私には、大切な家族や友達がいます。この広島で、被爆された人達にも大切に思う人達がきっといたはずです。命の大切さを学べ、被爆体験された方の気持ちが聞けて、「小さい子がガラスの破片を食べていた。黒い雨が降り、皮ふがむけ、肉がさけ、性別は声でしか分からない状態。水が欲しい。家はボロボロ…」そんな話を聞き、ノートにメモをとりながら、今のこの時代、私がどれだけ恵まれているのかを思い知りました。

昔のくらし、今のくらし、そして未来のくらし。昔のくらしの中で学んだ戦争。未来のくらしには絶対にくり返してはいけない。たくさん勉強させてもらいありがとうございました。

広島派遣団としての体験

寺田西小学校　6年
梶　木　心　愛

私は、7月21日・22日の広島派遣団としての体験を通して色々なことを知りました。

私は、まだ原爆のことを何も知りませんでした。でも、あの日の広告を見て原爆に出会いました。

広島に行って、お話を聞いたり、写真を見たりして、原爆がやっと何なのかを知ることができました。原爆を体験した人々、止まった時計やボロボロになった服などを見ていくうちに、原爆を体験した人たちの気持ちが感じられました。それは、人生に一度の辛い体験だったと思います。

家族をなくす人、けがをして苦しんでいる人、燃える火の中泣き叫ぶ人がいる中、生き残った人は、人生を大切に生き

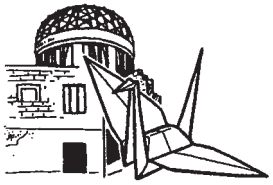
なければなりません。原爆を体験していない私たち、もちろん他の人たちも、平和に過ごしていることが普通だとは考えてはいけません。むしろ、これを知った人は、もう普通に過ごしてはいられないと思います。私は写真などを見て、泣き叫びそうになりました。

実際の原爆ドームを見に行きました。そこには、ボロボロでつぶれそうな原爆ドームがあり、私は、原爆の威力を知ることができました。もし私の真上に落ちたら一瞬にして死ぬと思います。だから、生き残った人は、すごいと思いました。

つるを捧げるとき、他にもたくさんのつるがありました。そこには、数えきれないたくさんのつるがありました。そのつるは、広島の原爆にあった人への気持ちがつまったつるだと思います。また広島に行くときは、つるを作って持って行き、捧げてあげたいと思います。

広島風おこのみ焼き作りでは、京都のおこのみ焼きと作り方が違い、麺が入っていておいしかったです。中身が多く、ひっくりかえすのがむずかしかったり、その作り方におどろきました。

この悲しみを世界中が知ることによって、世界は平和になると思います。



生きるって大切

寺田西小学校　6年
桐本梨乃

私は広島に行って色々な事を学びました。広島に行く前は原爆が広島に落とされたことも知らなかったです。お母さんやお父さんの話を聞いているとすごく怖かったです。

私は、広島に行って原爆の事をもっと知りたかったので、広島派遣団に参加しました。

1日目は、平和記念資料館に行きました。そこでは音声ガイドの話を聞きながら見学していました。資料館に展示されていたものは、ほとんどが焼け焦げて真っ黒でした。時計も展示されていて、時計を見るとほとんどのものが、8時15分でした。その時計を見ると、今自分が8時15分にいるような気がして、ものすごく恐ろしかったです。壁にガラスの破片が突き刺さっているものがありました。壁に突き刺さるくらいの勢いだったんだなと思いました。

実際に原爆を体験された人のお話を聞きました。近藤さんは4才で被爆されて、今でもその怖さは消えていないと言っていました。原爆が落とされた日はすごくいい天気だったそうです。でも1945年8月6日午前8時15分ごろ急に「ピカッン」と光り、それと同時に、「ドドッン」と大きな音がしました。いったい何が起きたか分からなかったそうです。近藤さんはみんなにこう言いました。「生きる事って辛いけ

ど明るい事を考えてほしい、家族と友達を大事にしてほしい。」と言いました。そのお願いされた事は、これから生きていく先も必ず守ろうと思いました。

２日目は、資料館の地下に行きました。一番下に行くと水が流れていました。その時、私は分かりました。それは「どの資料館に行っても水が流れているのは、人々が水がなくて死んでいったからだ」と。その時、自然に涙が出てきてしまいました。

実際に原爆ドームに行きました。原爆ドームは、まだ半分以上残っていました。原爆が落とされた場所からすごく近いのに、まだ半分以上残っているのは「奇跡」ではないかと私は思いました。

私は広島に行って、今、自分がどれだけ幸せか分かりました。今の時間を今までよりも大切に過ごしたいし、絶対これから先も戦争をしてはいけないと強く思いました。

広島で学んだ事

富野小学校　６年
今　村　昂　暉

ぼくは、初めて原爆の恐ろしさを知りました。行くまで広島は原爆が落とされたという事しか知りませんでした。学校でも習ったことがなかったし、小学校で最後の夏休みなので、特別な体験をしたかったので広島派遣団に参加しました。

一日目は、資料館に行きました。資料館は、ぼくの想像をこえるような物ばかりでした。入ってすぐに見たものは、被爆者が皮ふを垂らしながら炎の街を歩いているジオラマでした。原爆一つでこんなに残酷なことになるのだなと思いました。現実に起こったようなものとは思えない、映画を見ているような感じでした。人影の石は、今でもだれかが座っているように感じました。懐中時計は八時十五分で止まっていました。その時間に原爆で十四万人の命が失われました。広島はこの時に終わったように感じました。

その後、被爆者の方からお話を聞いて、原爆の被害の範囲が大きいということが分かりました。しかも、七十年間は草木が生えてこないといわれていたことと、死体の山があったというのが特に印象に残りました。今の広島は七十一年前にそんなことがあったとは思えないほど、きれいな街なみで緑も多い街でした。

二日目は、広島平和記念公園に行きました。そこでぼくは、「世界が平和になりますように」と祈りました。原爆の子の像の展示ケースの中には、たくさんの折りづるがありました。やはり、原爆ドームを訪れる人はたくさんいるのだなと思いました。オバマ大統領も訪れたというのもあって、たくさんの外国人も原爆ドームを見て、原爆について学んだのかなと思いました。爆心地からはかなり近い場所なのに、よく崩れなかったなと思いました。原爆ドームの外側は当時のままでも、中は補強されていました。やはり何十年先も原爆の事を後世に伝えるために、補強されているのかなと思いました。

ぼくは、原爆はあってはならないものであり、二度と広島でおきた事をくり返してはいけないと強く思いました。原爆のない社会を作っていきたいと思いました。

広島派遣団に参加して改めて、命と平和の大切さを学びました。家に帰って家族に原爆の恐ろしさを話しました。今回体験した事、学んだ事を色々な人に伝えていこうと思います。

広島で学んだこと

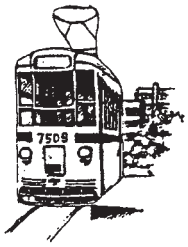
富野小学校　6年
小川桃花

私は、広島派遣団に参加して戦争のおそろしさや原爆のこわさを、改めて知りました。資料館で見た、皮ふがはがれていて血まみれの人形の姿が今でも忘れられません。今私たちがあたり前のように暮らしていることがどんなに素晴らしいことなのか、家族や友達がいることがどんなに幸せなことなのか、よく実感させられました。

私は、広島に行ったことが無かったので、広島がどのようなところなのか分かりませんでした。なので、バスガイドさんの話を聞いている時は「こわいところなんだな」と思っていました。しかし、実際に広島に着いた時、「本当にここでおそろしいことがあったのかな」と思うくらい、笑顔であふれている観光客の人たちでいっぱいでした。「こんなに変われるんだ」と感動しました。道の真ん中に電車が走っていたり、高いビルがたくさん並んでいたりなど、広島は素晴らしい町でした。

資料館の中に入った時、「本当にこんなことが日本で起きたの？」と、何度も思う場面がありました。その中でも、原爆が落とされた時に中学生が着ていた服が展示されていたのですが、ボロボロで服ではないようでした。服の布には血のしみがあり、いろんなところがやぶれていて、当時の様子が思い浮かびました。「きっとこの人はこんなことを思いながら亡くなられたんだろうな。」「この人はこんなことを思いながら病気と戦っておられたんだろうな。」など、いろんなことを考えました。原爆ドームに着いた時は、原爆の力の強さがすごく伝わってきました。原爆ドームは、原爆、核兵器のおそろしさを深く考えさせられる場所なので、今後もずっと残しておかないといけないものだなと思いました。

私は、今回の広島派遣団に参加してたくさんのことを学びました。原爆は体だけじゃなくて心にも傷が残ることや、「あたり前」がどんなに大切なことなのか、他にも戦争はどれだけこわいことなのかなど、平和について深く考えられる良い機会でした。戦争はとてもこわいもので、二度と起きてはいけないことです。このことを、これからは私たちが伝えていけるようになりたいです。



原爆のおそろしさ

富野小学校　6年
松本歩華

私は広島派遣団として、七月二十一日～二十二日に広島に行きました。バスで約五時間かけて、やっと広島に着きました。バスから降りて広島の景色を見ると、建物がたくさん建ち、楽しそうに遊んでいる人がいました。百年間は生えないだろうといわれていた植物もたくさん生えていました。そんな所で七十一年前に原爆が投下され、焼け野原になったとはとても信じられませんでした。

まず初めに平和記念資料館に行きました。そこには原爆によって皮ふが垂れ下がり、苦しそうな顔をし、手をのばしている親子のロウ人形や、八時十五分で止まった時計、焼け焦げた三輪車などがありました。どれも、目をそむけたくなるくらいとても現実的でした。

次に被爆した方のお話を聞きました。そこで改めて原爆のおそろしさを知りました。

二日目は、慰霊碑や原爆の子の像に行って花や折りづるを捧げました。原爆ドームにも行きました。写真などで見るよりも、より原爆のおそろしさを語っていました。

今回の広島派遣団に参加して、今、勉強することができ、おいしい物も食べることができる、そんな何不自由ない暮らしができるだけでとても幸せです。七十一年前の出来事をいろんな人に、たくさんの人に伝えていくことが今、私たちができることだと思います。

広島に行って

青谷小学校　6年
大西祐太朗

ぼくが、なぜ広島派遣団に参加したかと言うと、広島でどんなことがあったのかを、知りたかったからです。

一日目に、平和記念資料館へ見学に行きました。平和記念資料館を見学した時に見た物は、焼け焦げた三輪車や、中身が炭になっていた弁当箱や、黒いつめなどでした。

ぼくは、それを見るのは嫌でしたが、広島ではこんなことがあったということで、こらえて見ました。ぼくが、一番驚いたことは、地上６００ｍから原爆が落ちたことです。43秒間のあいだに落ちてきたそうです。温度は、約３０００～４０００度だと知りました。それを聞くと、なんだか悲しくなりました。このことで、なぜこの戦争で、「多くの人が亡くなったのか」、原爆のこわさを知りました。音声ガイドで、黒い雨などの話しを聞くと、だんだんこわくなってきました。

次に、被爆体験者の話を、聞きました。近藤さんという人に、話をしてもらいました。近藤さんは、４歳の時に、原爆が落ちてきたそうです。近藤さんの話を聞いていたら、その

様子が浮かんできてこわくなりました。近藤さんは、とても苦労して、生きのびたんだなと思いました。ぼくは、今の時代に生まれてきて幸せだなと思いました。

その後、旅館に行ってお風呂に入って、夜ご飯を食べて、ミーティングをしました。

二日目は、平和記念公園に行って、つるを捧げました。原爆ドームを見て、びっくりしました。原爆が落ちたのに残っているなんてすごいなと思いました。その近くには、外国人がとても多かったです。

広島で、どんなことがおきたのかを、学びました。これ以上、戦争は、してはいけないと思いました。一つ一つの命を、大切にしていくことが、わかりました。

広島派遣団に、参加して良かったです。

とてもこわくて楽しかった広島

青谷小学校　6年
谷口力哉

ぼくは、広島に行くときに、広島のことを想像していました。どんな想像をしていたかというと、おじいちゃんからもいろいろと聞いていたので、けっこう都会だと思っていました。そして着くまでにバスガイドさんからいろいろ話を聞いていて、広島に着いてから昼食を食べて資料館へ行きました。

ぼくは、そこで信じられない光景や資料を目の前にして、とても今の広島とは全く違った光景が広がっていました。資料の一つにとても有名な八時十五分で止まった時計があり、それを見ましたが、ぎりぎり見えるか見えないほどぼろぼろでした。資料の写真を見ると、痛々しい傷跡や焼けどがひどかったです。

ぼくは、その光景を見て、正直に言うととてもこわくて、もう見たくないと思うくらいでした。だけどぼくは、人が犯した罪で、実際に昔にあった出来事だから、知っておかないといけないと思ったから行きました。

それからバスの中で禎子さんのことを知りました。バスガイドさんから、禎子さんの話を聞いているうちに、お母さんの子をおもう心と、子が治ってほしいことがよくわかりました。そして資料館にも禎子さん関連の物がありました。特につるは細かく折られていて、とても器用だったんだとわかりました。

そして原爆で日光のようなものに当たって、溶けてぶくぶくとなった瓦を触るという、貴重な体験もしました。

そして、被爆者の話を聞かせてもらいました。特に共感できたのが、その被爆者さんを守ってくれるお母さんやお父さんで、とても共感できました。そしてよく聞く、手足が二本ずつあるように見える風に肉がさけて、水を求めて死んでいったという話を聞きました。手足が二本ずつというのは、腕と筋肉が割れていたからで、言葉でいうと地獄絵図です。とてもこわかったです。いろんなことを聞きながら、資料館を見たりしていました。

二日目で特に印象に残っているところは、原爆ドームでのことです。原爆の悲惨な跡は、ぼろぼろでした。原爆が落ちたところは、病院でした。そしてガイドさんから、原爆ドームは中で鉄骨を入れて矯正して、倒れないようになっていると聞いたけど、原爆ドームの上部は、矯正や鉄骨もしていなくて、その色はピンク色でした。

それから広島風おこのみやきを作ることになりました。そして作った後にとてもほめられて、とてもうれしかったです。初めて食べてとてもおいしくて、この派遣団で一番楽しかったです。

人は、争いをする生きものです。それを、起こすのも人です。もう争いをしないために、広島であったことを、人に伝えていって、歴史を継いで、もう二度とこのようなことは、起こしてはいけないと思います。

広島に原爆が落ちた事を知って

青谷小学校　6年
上村　天音

広島派遣団に参加して、まず私は広島に爆弾が落ちたということに対して、広島の人は、どういう気持ちだったのかという所に疑問を持ちました。

広島平和記念資料館で見た、約四トン、長さ約三メートルの広島型原子爆弾が落ちた広島の人々は、なにがおこったのか分からないまま亡くなった人々と、水を求めて放射線をあびた水を飲んで亡くなった人々がいたと知って、広島に原爆が落ちたとき広島の人々は、戦争に負けたんだという気持ちと、ガラスの破片などが体に刺さって痛いという気持ちが重なりあって、悲しい気持ちとくやしい気持ちが現れたと私は思います。

そんな気持ちの中、原爆にあった人たちが数人生きていたと知って、その人たちは1つ間違えていたら、原爆で亡くなっていただろうという人たちだと私は思いました。原爆で友達や家族、近所の人たちが亡くなっているのか、生きているのか全然分からない状態で「食料はどうしよう、自分たちはこれからどうやって生きていこう、家族は、ガンや白血病にかかっていないだろうか。」など、たくさんの疑問を抱えながらも生き続けたその人たちは、本当にすばらしい人たちだと思いました。

私は、広島平和記念資料館で、破れたボトムスと八時十五分に止まった時計を見たとき、原爆の本当のおそろしさが目に浮かびました。

私は、広島平和記念資料館を全て見たと聞いたので、出ようと思ったとき、一つの本が目につきました。その本には、いろんな国の人たちが平和記念資料館に来て、広島へのメッセージと、これからの時代を平和に過ごすためのことなどを考えられている文章が語られていたからです。

私はそれを見て、外国の人々も広島の平和を願っているんだなと思いました。

最後に私は広島派遣団に参加して、一九四五年、八月六日、八時十五分、広島に原爆が落ちたということは、広島の平和とはなにかを考える事なんじゃないかと思いました。

私は、原爆で亡くなった人々のためにも、広島に平和が訪れるのを願うことだけじゃなく、これからの広島の未来を、たくさんの人たちと考えて、実行させることが、これからの広島の平和を築くということなんじゃないかと思いました。

広島でまなんだこと

青谷小学校　6年
岡　﨑　羽　花

私は広島派遣団として、原爆が落とされて草や木や花、そしてたくさんの人々が一瞬にして消えてしまったという広島に行きました。でも今の広島は、草や木や花は生えているし、それにたくさんの人々がいて、原爆が落とされたとは思えないほどの都会でした。

私たちはまず資料館へ行きました。そこには皮ふが垂れ下がり「水～水がほしい。」と今にも言っているようなロウ人形や、八時十五分で止まった時計がありました。それを見て、原爆がどれだけ強い力を持っていたのかがわかり、それにどれだけ人を傷つけたのかがよくわかりました。それで一番残こくだと思ったのは、百万分の1秒というごく短い時間に反応が起こり、大爆発を起こしたということです。なぜなら十分の時間があれば、その飛行機に気づくと少しでも遠いところに行けたからです。

次に被爆した方のお話を聞きました。七十一年たった今でも昨日のことのようにすらすら話をしていらっしゃったので、すごくこわくて、くるしい生活をしていたのだなぁと思いました。原爆がなければ、人々がくるしむことや夢が消えていくことはなかったのになと思いました。

次の日は慰霊碑や原爆の子の像のところに行きました。みんな原爆のせいで、亡くなったり、勉強もできないし、それに食べる物も飲む物もなく、くるしい生活だったと思います。それに比べて私たちの今の生活は勉強もできるし、食べ物も飲む物もあるという、楽しい生活で、私たちにとって、「ふつうの生活」が一番幸せなのかなと思いました。

広島に行って、原爆は、心にあながあくほど深い傷をつけ、もう絶対おこってはいけないことだと思いました。

私たちは、ふつうの生活を過ごしていて、平和な毎日を過ごしていて、とても幸せだと思いました。広島派遣団として私たちにできることは、原爆のことやこわさをみんなに知らせることだと思うので、みんなに知らせていきたいと思います。

広島に行ってみて

青谷小学校　6年
西山　天

私が広島派遣団に参加したのは、2年前に私のおねえちゃんが広島派遣団として広島に行き、「すごかったで」と言っていたので、私も行ってみたいなと思ったからです。でも広島市に着いてまわりの景色を見てみたら、本当に71年前に原爆が落とされたと思えないぐらい、きれいな所でした。

最初に私たちが見学した所は、平和記念資料館です。

そこには、8時15分で止まった時計や、溶けた瓶やお皿、もう一度触ったら壊れそうな三輪車やヘルメット、ぼろぼろになって破けている服などがありました。

私が一番印象に残ったのは、水を探している親子の姿です。それは、もう服もぼろぼろになり、皮ふも溶けて垂れ下がった様子が再現されたものです。それは、なにかとくっついたら取れてしまいそうなぐらい、もう皮ふが垂れ下がっていました。

その後、地下の展示場を見に行ってから、被爆者の話を聞きました。原爆は3000～4000℃ぐらいの温度で燃えて、原爆ドームもまっ黒に燃えていたと聞きました。3000～4000℃も燃えていたのに、よく耐えられていたなと思いました。

その後、旅館へ行きました。入浴して夕食を食べてからミーティングをしました。そこで、班のみんなで作ってきたつるを束ねました。

そして二日目は、旅館を出発した後に、原爆ドームや爆心地を見に行きました。まずは、慰霊碑を見に行きました。そこでは班ごとにお花を捧げたり写真を撮ったりしました。それで写真を撮って気付いたのが、真正面から撮ったら、原爆ドームが真ん中に入ることに気付きました。それと周りにある水には意味があるんだとわかりました。その後、集合写真を慰霊碑の前で撮りました。それから私たちが折ったつるを捧げに行きました。

その後、原爆ドームに行きました。でも、私が予想していたよりも小さかったのでびっくりしました。でも、こんなにも残っていてすごいなと思いました。しかも、もうガラスは残ってないし、あとは骨組みと、コンクリートぐらいしか残ってないなと思いました。

次は爆心地を見に行きました。でも爆心地が病院ということを聞いて、とてもびっくりしました。

私は広島派遣団に参加して、いろいろなことを学びました。

そして、二度と戦争というものを起こしてはならないと思いました。これからも平和で、みんなが幸せだと思えるような国であり続けていってほしいなと思いました。

これからは、私たちが戦争のことを語りつたえていく番だなと思いました。

広島派遣団に参加して

青谷小学校　6年
増田　愛葉

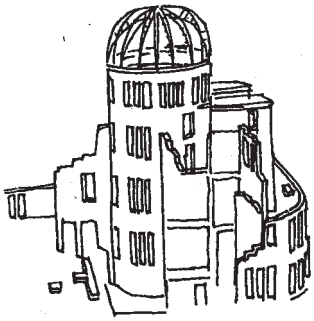
私が広島派遣団に参加しようと思ったのは、友達と、広島ってどんなところなんだろうと思ったから参加しました。でも、私は原爆が落とされたのは知っていたけれど、隠れ場もなくなるほどとは知りませんでした。

最初、私たちは、平和記念資料館を音声ガイドを使いながら見学しました。

そこには、皮ふや服が破れたり、溶けたりした人形がありました。れんがも崩れていて、もうどこに逃げ込めばいいんだろうという感じでした。男か女か分からないぐらいになっている様子が再現された物を見たとき、心臓がドキドキしました。なぜなら、今、私たちがそんな事になったらどうしようとか考えていたからです。それから少し進んだ所には、八時十五分で止まった時計が置いてありました。広島に行く前に、去年行った人から、八時十五分に止まった時計があるという話を聞いていて、本当かなと思っていたけれど、もう火に焼き付けられた時間を見て、とても衝撃を受けました。それから、火で溶けたつめと皮ふは、これが皮ふ？みたいなものがあって、だんだんおそろしさが分かってきました。それから、古く錆びたヘルメットと三輪車がありました。そこには、三輪車が好きな男の子がサイレンが鳴るまで乗っていて、三輪車と一緒に亡くなったと書かれていて、それを読んだ私は、小さい子が亡くなると想像すると涙が出てきそうでした。

もう少し歩くと、れんがが触れる場所でした。火に当たった所を触ると、ぶつぶつざらざらしていました。しかもまっ黒でした。火に当たっていない所の色はこげ茶色をしていて、つるつるしていました。私はすごく疑問でした。そんなに火に当たっていない所と当たっている所では、すごく違っていたからです。それから、病気になった人の写真を見ると、顔が写っているものがあって、悲しそうな顔をしていました。もう体全体が傷だらけで、かわいそうだなと心から思いました。

この広島派遣団に参加して良かったと思います。今、私たちは幸せだけど、戦争にあった人がまだまだ大切にしていけるはずだった人生を、戦争でなくすことはつらいことだなと思いました。だから、こんなことがあったことを知ったので、まだ戦争がよく分からない人にも、こんなことがあったと伝えたいと思いました。



編集・発行　城陽市　企画管理部　秘書広報課

〒610-0195　京都府城陽市寺田東ノ口16・17
電　話　０７７４－５６－４０５０
ＦＡＸ　０７７４－５２－１１７５
ＵＲＬ　http://www.city.joyo.kyoto.jp/
E-mail　heiwa@city.joyo.lg.jp

再生紙を使用しています。